



和装本

和装本

5

6482



25
6482

昭和五十一年十月、飯島重助氏
より贈らる
村井順



010/86022039



近々喜之部後白

夜からあふかゝるゆまうや花雪
河返りささるるもつとまよか
まゝさるりなまなやとらゆ
少半のりゆまなや花雪の
よものりゆまなやとらゆ
つ新舞まなからゆまのふん外

河内 古鏡
京 樽堂
イセ 屠龍
丹コ 杵谷
但馬 風車
甘カ 大翠

梅香のこころをよみしるるに
丹六 鴻亭

空しくあはれしるるに
丹七 六外

うらみしるるに
丹八 花陸

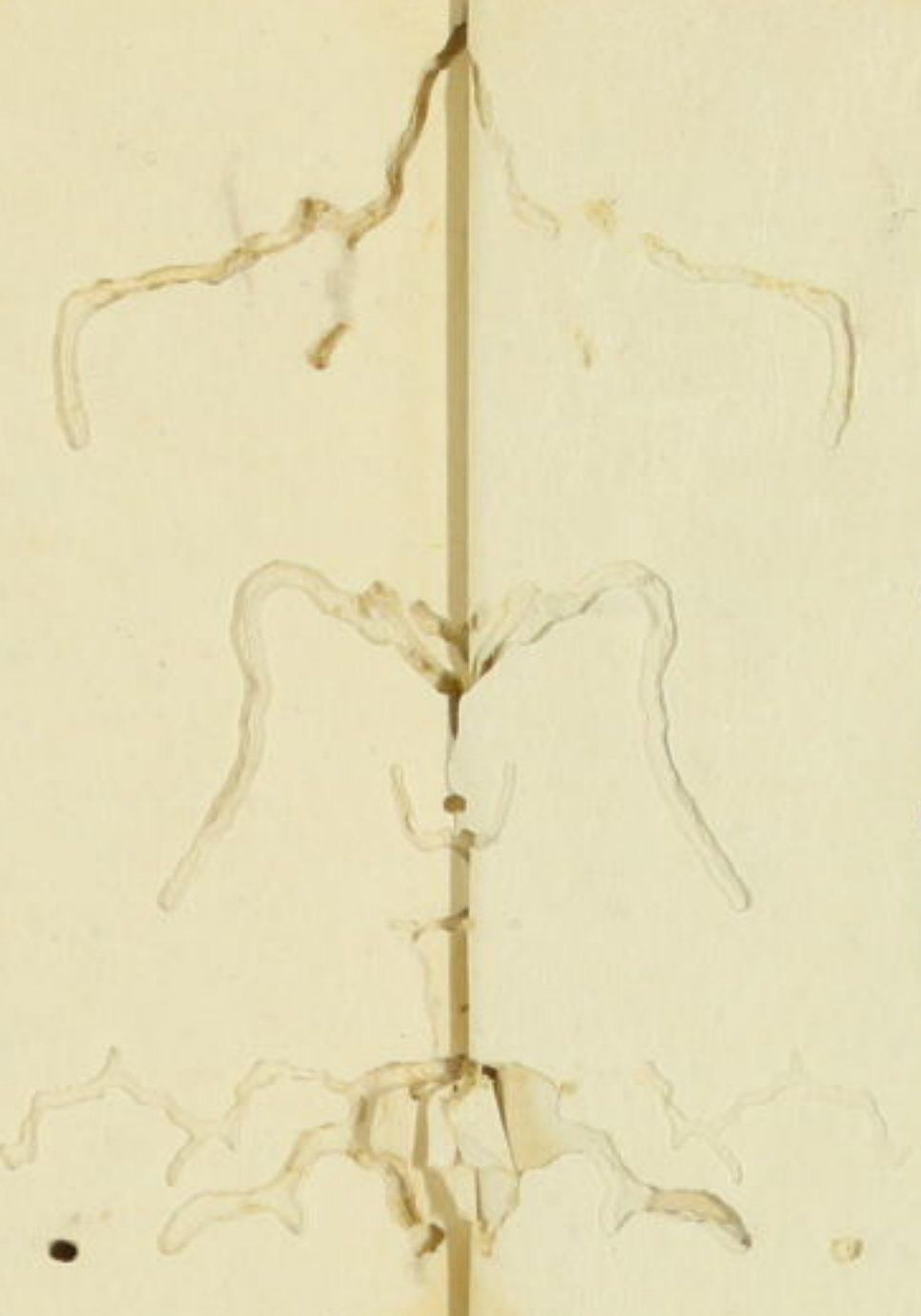
花はしるるに
不及

懐くしるるに
丹九 宗史

縁をわきしるるに
血源

あはれしるるに
丹十 清谷

梅香のこころをよみしるるに
卓他



梅香のこころをよみしるるに
梅價

あはれしるるに
京 善好

あはれしるるに
可島

あはれしるるに
義紅

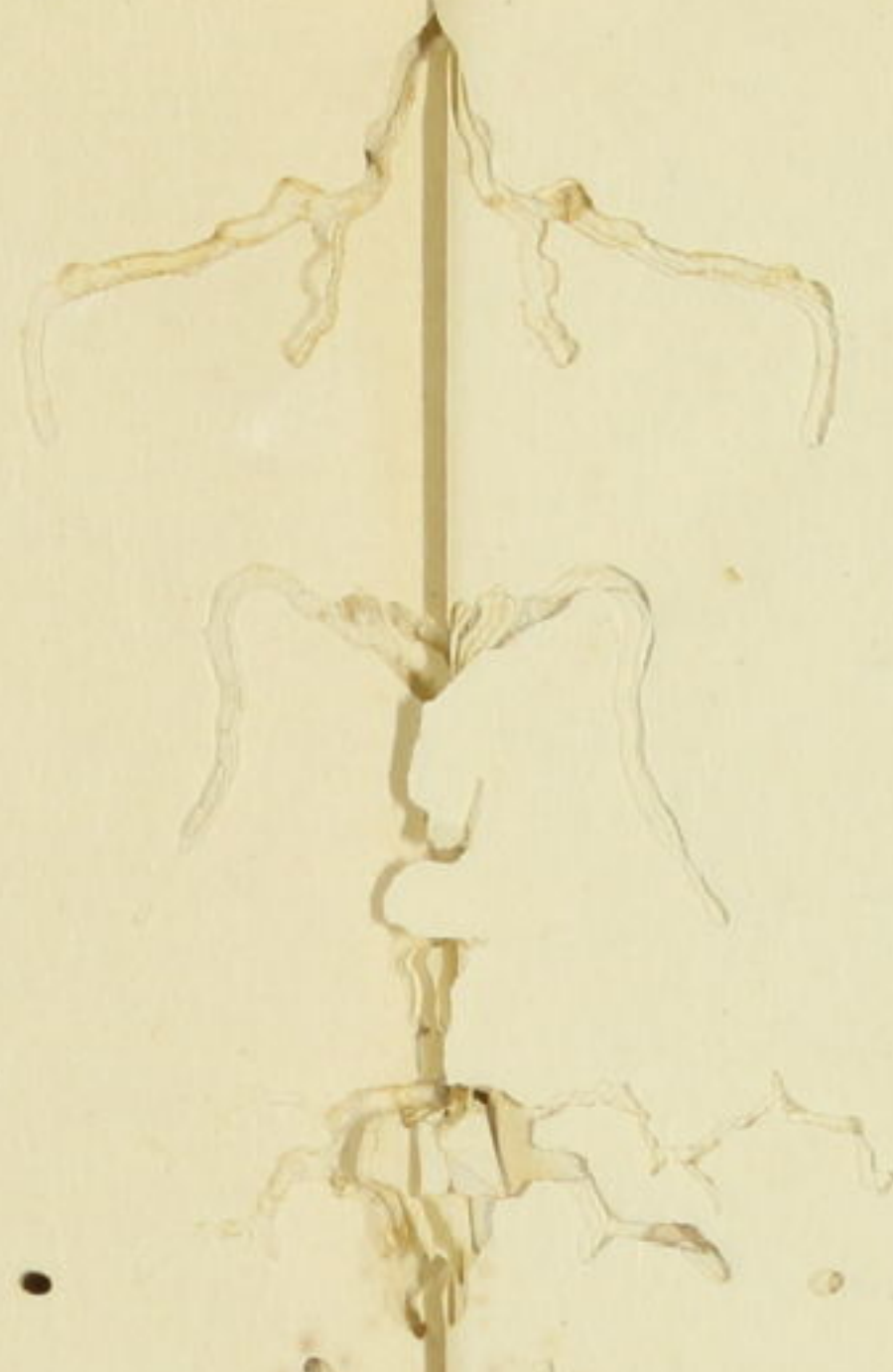
あはれしるるに
務夫

あはれしるるに
五楮

あはれしるるに
丹十一 宣州

あはれしるるに
丹十二 菊鼻

千々維
 丹コ
 山
 越中
 映水
 雲宮
 王子
 山
 一カ
 屋



近々春多部佐修

萬頼

夜白
 頼
 白
 頼
 白
 次

ひふとのふさくやうき船出

白・頼

小師のくせよ日課かゝる

白・頼

冬すゑつらつら時をかきほ

白・頼

時くさし目の赤き梅もつ

白・頼

人あききき時見はゆ梅雨

白・頼

つせもたけぬさき清らつ

白・頼

雪はふれはる律をまうけく

白・頼

さそふさすは魚乃白焼

白・頼

月らつてあけり十日と

白・頼

竹葉のつねの法とさしき

白・頼

たんぼくと伸く吹く花のほ

白・頼

まじりてふと麻乃角

白・頼

このちりけと後者の結とせき

白・頼

ちりきりけおけけり

白・頼

今年もゆめゆめはあはれ

白・頼

咲くはあはれとさく無解

白・頼

新編 雑部 卷之

哉人そはくくまのほりま

スリ 秀介

後くまのまのちかおの部

イヨ 黒推

かほりまのまのまのま

西コ 里女

ほりまのまのまのま

母コ 宇弘

啼のまのまのまのま

母コ 一蘭

桑のまのまのまのま

白の

後着のまのまのまのま

母コ 雪川

折のまのまのまのま

多を

高のまのまのまのま

但馬 才女

やのまのまのまのま

イヨ 梅村

常のまのまのまのま

ヒノ中 太六

のまのまのまのま

五嶺

のまのまのまのま

アチ 丁公

のまのまのまのま

イヨ 柴人

枝まきくまきくかかぬる管ふ外

茂推

夕なりけしちらきくほく外

母ハ 山

うきまきくくくくくくくくく

志郎

卯くくくくくくくくくくく

系氣

きくくくくくくくくくくく

梅堂

きくくくくくくくくくくく

常水

きくくくくくくくくくくく

狸友

きくくくくくくくくくくく

半谷

きくくくくくくくくくくく

映門

きくくくくくくくくくくく

凸木

きくくくくくくくくくくく

白雅

きくくくくくくくくくくく

白紙

きくくくくくくくくくくく

柳浦

きくくくくくくくくくくく

蕉山

きくくくくくくくくくくく

芳樹

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

母 大栗

あまのついでにあらはれ

あまのついでにあらはれ

大栗

あまのついでにあらはれ

大栗

あまのついでにあらはれ

大栗

あまのついでにあらはれ

大栗

あまのついでにあらはれ

大栗

あまのついでにあらはれ

大栗

燈籠よりきくはなをばとりしらん
 ちりりあはれふい 嫁はる也
 戸口まじくはなをうらむ花の枝
 月乃さすはなをうらむ花の枝
 雪のうらむはなをうらむ花の枝
 りんがやんやん人形少割
 小大ふりさかすはなをうらむ花の枝
 昔きくはなをうらむ花の枝

籟 籟 籟 籟 籟 籟 籟

腰細くはなをうらむ花の枝
 夕イリヤニスきくはなをうらむ花の枝
 雪のうらむはなをうらむ花の枝
 ちりりあはれふい 嫁はる也
 戸口まじくはなをうらむ花の枝
 月乃さすはなをうらむ花の枝

籟 籟 籟 籟 籟 籟 籟

香十郎

世

歌集各部弁白

江正南

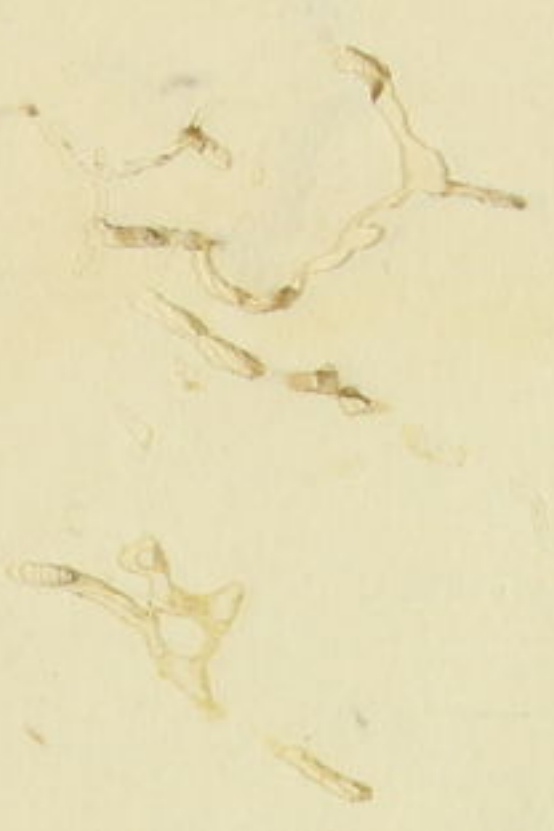
丹玉峨

江孤白

江素竹

丹雀巢

丹茶圃



城南め柳

丹ほろ

江茶

丹夫州

京乙

丹夜白

丹雨新

丹抱儀

丹

丹

梅暎^{一七} 梅暎
 南涯 南涯
 素窓 素窓
 出年 出年
 雪遊^七 雪遊
 雪友 雪友
 樵山^八 樵山
 風笈^{一七} 風笈
 梅暎^{一七} 梅暎
 南涯 南涯
 素窓 素窓
 出年 出年
 雪遊^七 雪遊
 雪友 雪友
 樵山^八 樵山
 風笈^{一七} 風笈

梅暎^{一七} 梅暎
 南涯 南涯
 素窓 素窓
 出年 出年
 雪遊^七 雪遊
 雪友 雪友
 樵山^八 樵山
 風笈^{一七} 風笈
 梅暎^{一七} 梅暎
 南涯 南涯
 素窓 素窓
 出年 出年
 雪遊^七 雪遊
 雪友 雪友
 樵山^八 樵山
 風笈^{一七} 風笈



月よけのついでにちりちり木の子

月 丹

内子にまじりてやうにちりちり木の子

内子 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

ちりちりちりちりちりちりちり

ちり 丹

丹月 獲

京山 彦

江戸 宗羽

城 益弓

母 九氣

工中 作哦

八千 茶葉

江原 芋丈

辰 ぬり 珠敷

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

あ ぬり ぬり

通々系々部俳諧

伊雪やうらうらお空に秋をき

風冬

まじりけりけりけりけりけり

天冬

わらわらけりけりけりけりけり

梅冬

目もくもくあはれ白く燈後

冬

さくらついでにもまんまの月を水

水

かたむねも虫の門のうらもあはれ

冬

嗚呼と遠くはるし小春ひ

冬

よめと披きあはるなぬ後冬

冬

ねのねもけりけりけりけりけり

冬

連りもついでにけりけりけり

冬

おれもあはれもなまき四時冬

冬

ねへけりけりけりけりけり

冬

牛もあはれもけりけりけりけり

冬

右手後りけりけりけりけり

冬

牙子ふらりきりあしあし
 艶り見りり 乃けと色は
 吹きさら丹海より花は
 けら紙を山月より扶
 是 物 冬 是

右一折各六句

逐々集材部後句

舟より懐く入るは
 かきこも幹よりあやむ月
 船場を渡りかた月と
 ころり手と信はさや月との
 名月もあやむ 善き
 ねをけりし移像しる月

京 梅 色
 江戸 山 外
 陸奥 星 介
 江戸 玉 峯
 但馬 仙
 丹 北 袖

松よもて折れをなすやふの月

^{イセ} 家尾

えんて月入る影しる月あふ

凸木

いかにし海士も常してあつら

瓢全

和枝やんけのわんむけの松

^{但馬} 松島

くまひと物橋をあら紅雲の

^京 赤巻

あかあけ虫啼りしる津の

^{江良} 沢雄

あはれしはちる更さめて出乃

^{イセ} 麻

あまのたけしるむらうの

^{下ツサ} 子行

松よもて折れをなすやふの月

^{江良} 之英

いかにし海士も常してあつら

^丹 曉本

えんて月入る影しる月あふ

^京 麦信

いかにし海士も常してあつら

^{江良} 柳下

和枝やんけのわんむけの松

^{但馬} 甲丸

くまひと物橋をあら紅雲の

^丹 士好

あはれしはちる更さめて出乃

^中 空月

あまのたけしるむらうの

^中 石乙

新室やあまの葉をさす水漏れ利

但馬 栞馬

名のしほく 菊のさきと山後のか

夕日

さきけと陽をさすや草ののむ

あけ

双紙おけりきりやさきり花

うす 雀塚

草のけりや少少をさす油のさ

いせ 御自女

糸をさす花のさきや露のさ

但馬 五木

無常や月けかきる裏り山

大 風

舟人の少少とせりや船の丈

但馬 柳江

あけけりて自やさきり花

丹 月景

こぼれさきり花のさきり花

舟 舟

さきり花のさきり花

ほろり 乙や

春中をた

連翹のさきり花

大 柘

と日月やさきり花

美 糸

一軒と記さるるの驛

十三

後降るる上張

細雪をけりて

現るるを結るる六月

さかかきりて

まじりて

春糸と月を

あはれ

糸

拵

糸

拵

糸

拵

糸

拵

たてを削りて

あはれ

はつと裏へ

目ちあはれ

らうんも大い

きんぬの伸

ちかちか

あはれ

糸

拵

糸

拵

糸

拵

糸

拵

十四

く柳の午時の日柳の照わさる

松

増えき備りきとれ

松

古松をくつく芽よ切さる

松

けりし出守送若のらさる

松

まふる金くまくと定規のつて

松

仕上り誇りかゝる風よ

松

まふる松のさすくさるる夕月よ

松

くくくくくくくくくく

松

くくくくくくくくくく

松

伊知しよりとゆらるる

松

舞の出さるくくくく

松

海に掃きさるくく市松

松

舞のくくくくくく山の時

松

くくくくくくくくくく

松

各十のり

さあけらるもいづれあはれ御言付

御言付

さあけらるもいづれあはれ御言付

下六 梅

さあけらるもいづれあはれ御言付

母六 挂眉

さあけらるもいづれあはれ御言付

呉梅

さあけらるもいづれあはれ御言付

宇賀

さあけらるもいづれあはれ御言付

丹睡

さあけらるもいづれあはれ御言付

言江

さあけらるもいづれあはれ御言付

梅窓

さあけらるもいづれあはれ御言付

蛙夕

さあけらるもいづれあはれ御言付

相馬

さあけらるもいづれあはれ御言付

紋牛

さあけらるもいづれあはれ御言付

水月

さあけらるもいづれあはれ御言付

文圃

さあけらるもいづれあはれ御言付

空人

さあけらるもいづれあはれ御言付

杉野

とくもてあそびてくちりてをるる事

可丈

峰もてはしるる事やまきの事

花

おもしろくもてあそびてくちりてをるる事

一

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

柳

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

士

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

大

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山

ゆきのかげにうきうきとあそびてくちりてをるる事

山



天保十己亥年冬
御摺物所菊屋平兵衛

平兵衛

○京東洞院佛光寺上
御摺物所菊屋平兵衛

